9月定例会 一般質問で

市天文台の廃止…

移転先の見通し、立たず

吉田市議 「天体観察室」設置を求める

池多地区への説明 「配慮に欠ける」

9月定例会の一般質問（9月13日）で吉田おさむ市議は、池多地区・三熊の市天文台について取り上げました。

市は2018年12月に「天体観察室・プラネタリウム更新基本計画」を策定し「まちなか」への移転の方向を打ち出しましたが、その時点で地元には「基本計画」を何ら説明していません。

池多地区自治振興会等には、昨年3月定例会の開会数日前になって初めて訪れ、「廃止するので了解を」という〝通告的〟ではなかったのかとの問いに、市教委は「十分説明した」と答弁。吉田市議は「あまりにも配慮にかけた対応」と批判。周辺部軽視と言わざるを得ないと指摘しました。

市教委は移転先について、城址公園か城南公園を考えているが、現時点で場所も、時期もまったく決まっていないと答弁しました。

←天文台廃止を告げる看板

アヴィレ

「青い自転車」への広告料など見直しを

市民文化事業団 市1.6億 1.1億

2010年の導入からこれまで、自転車及びステーション、広告パネル増設などハード面の補助金が計約**2億7千万円**、広告料などに**1億6300万円**、**合わせて4億3千万円**を超え、この他に市民文化事業団が支払っている広告料も9年間で**1億1200万円**にもなっている事が市の答弁で明らかに。しかもこの多額の投資は運営会社の海外資本の大手広告企業へ吸い上げられていきます。

一方、自転車の利用実績は1台あたり1日0・89回、1回あたり平均9・14分。

赤星市議は9月議会の一般質問で、「『費用対効果』が疑問すぎる。最小の経費で最大の効果（地方自治法）の原則にも反する」と指摘し、これを続けるのかただしました。

藤井市長は、「デザイン性の高いシステム外観が都市の格を上げ、風情やおしゃれ感を醸成し、公共交通の利用を促進する二次交通の役割を果たすとともに中心市街地の回遊性を高め、活性化に寄与」「生活の質の向上につながってきた」と評価し、「現行のシステムで引き続き運用」と答弁しました。

→雪で使えない時も24時間電気を消費（年間約8万7千㌔＝一般家庭20軒分くらいの電気を消費。44・3トンのCO2排出に相当。

12月定例会 一般質問で

赤星市議が提起

市議団、11/29 緊急申し入れ

「福祉灯油」が実現

住民税非課税世帯等に5、000円

高値が続く灯油やガソリン（2022.1.15撮影）

赤星ゆかり市議は、「原油高騰により食糧品や様々な物資が値上がりし市民生活が圧迫されている」として、所得の低い世帯に灯油購入費の補助を行うことを求めました。福祉保健部長が「早急に検討する」と答弁し、12月補正予算で実現しました。

これに先立つ11月29日、日本共産党は、所得の少ない世帯や生活保護世帯などに対して一世帯当たり1万円（少なくても5千円）の灯油購入費補助を行うよう「福祉灯油」の緊急申し入れ、「市民が主人公の富山市政をつくる会」も11月30日、来年度予算要望のなかで、生活困窮者に光熱費や防寒用品などの助成を行うことを求めていました。

赤星議員の質問動画→

●防災備蓄に生理用品など追加補正予算

災害時の避難所などの備蓄品に間仕切りテントや簡易トイレ、生理用品、紙おむつなど内容を充実強化する予算が約8千万円盛り込まれました。日本共産党の毎年の予算要求で備蓄内容充実や、赤星市議の6月議会一般質問「生理の貧困」対策などで求めていました。

●家庭ごみ有料化、なぜ

杉谷環境部長は「ごみ減量化につながる」「他都市で導入され効果」、家庭ごみの組成分析で実態把握を行い、国の手引きを参考に「他都市の先行事例を詳細に調査し導入効果の比較検討を行なってきた」と答弁。赤星市議は、ごみを本当に減らすには有料化ではなく発生抑制策が必要と指摘しました。

●給食費 月500円UP 値上げ回避を

総務文教委員会

市教委は原材料等高騰を理由に給食費値上げを発表。赤星市議は、無償化する自治体もある、市が補助して値上げ回避を、と求めました。

北代「縄文館」の空調

3年越し 修繕へ

長岡地区にある「北代縄文館」のエアコン設備が、3年間も故障したままになっています。

令和2年6月定例会で補正予算（約260万円）が可決されましたが国の補助金がつかず未執行に。吉田市議は赤星市議とともに現地を訪問し、必要性を確認しました。12月定例会の一般質問で吉田市議が「急いで修繕すべきだ」と求め、市教委は、令和4年の夏までには修繕する手立てを講じたいと前向きの答弁をしました。

2022年度予算要望

気候変動、学校再編 「生理の貧困」対策など

富山市議会日本共産党は12月24日、2022年度富山市予算にあたっての市長あての要望書を提出しました。

当日は赤星・吉田両市議が今本雅祥副市長に要望書を手渡し懇談。190項目の要望のなかで、小・中学校「再編」問題、気候危機打開の市の取組み、小・中学校のトイレに生理用品常備などで意見交換しました。

身近な地域要望も

要望書には、49項目の地域要望も含まれています。

今本副市長に手渡し、懇談（12/24）

第2次

「総合計画・後期基本計画」

吉田市議 「コンパクトシティ」の見直しを

吉田市議は、「第2期総合計画・前期基本計画案」に対して、反対討論をしました。

再開発に約20年間で420億円投入

討論では、「選択と集中」の考え方ですすめられたコンパクトシティ政策は、中心部に集中投資する一方で、周辺地域は〝切り捨てる〟側面があると指摘。

森前市政の間に完成した市街地再開発事業は10カ所で総事業費が約815億円、そのうち国・県・市からの補助金等は420億円超の税金が投入されてきましたが、中心部の商店街の「活性化」にはほど遠い寂しさがあると訴えました。

今回の「後期基本計画」は、藤井市長のもとで策定されます。そこで、コンパクトシティ政策を検証し、〝光と影〟を直視すべきと強調。中心部の固定資産税の増収分を周辺部に還流させると言っているが実際には還流されていない、〝合併の検証〟をして「後期計画」に反映させるべきだと主張しました。

フラワーハンギングバスケット、青い自転車見直し・廃止を求める

最後に、15年間で約8億超を使った「フラワーハンギングバスケット」と、青い自転車「アヴィレ」の見直し、廃止を求めました。